

この小説は、地球温暖化が煩く取りざたされた 4、5 年前頃に書き始めて、仕上がらなかった短編です。

温暖化傾向は、何か危険なものを起こすトリガーになっていると思っていたら、いつの間にやらコロナ禍になっていました。

それに重なるようにウクライナ問題が連日報道されると、遠い昔に経験したような吐き気を伴うやるせなさを感じてしまいます。

そして、すぐに、この短編は仕上げようと思いました。最後は希望を持たせたものになりました。

地球環境の変化は、歴史上からも作物飢饉を蔓延させ、奇怪な疫病を流行らせて、争い事を起こすと教えられましたが、今まさに順番はどうあろうとも、予想を超えたスピードで究極に世界食糧危機が迫っているように感じます。

でも、それ以上に危険なのは、毎日の TV 報道が残虐な姿だけでなく、大人達が大嘘つき合う姿をあからさまに見せつけていることです。

世界中の将来ある子ども達の夢と希望を奪ってしまいます。

以上